

第1日目（2月7日）

○議 長（黒滝松男君） おはようございます。傍聴の皆様、早朝から大変ご苦労さまでございます。よろしくお願いいたします。

ただいまから平成29年第1回南魚沼市議会臨時会を開会いたします。

○議 長 ただいまの出席議員数は25名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

なお、病院事業管理者、公務のため欠席、若井達男君、葬儀参列のため欠席の届け出が出ておりますので報告をいたします。

〔午前9時30分〕

○議 長 ここで、総務部長より発言の申出がありますのでこれを許します。

総務部長。

○総務部長 おはようございます。開会早々、大変申しわけありません。本日、議席のほうに第1号報告の差しかえ分を丸正として配付をさせていただいております。貴重なお時間をお借りして大変申しわけありませんが、差しかえ内容について説明をさせていただきます。

丸正の6ページをお開きください。本来、第2表としてごらんの表が入るべきところに、14ページの説明資料としての調書が入れかわっていたもので、訂正して差しかえをお願いするものであります。なお、14ページの調書につきましても、当初配付分からはより正確な表現と記載に変更してありますのでよろしくお願い申し上げます。

基本的な間違いで大変申しわけありません。今後とも十分、注意してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。以上です。

○議 長 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。本定例会の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定によりまして、議席番号16番・寺口友彦君及び議席番号17番・中沢俊一君の両名を指名いたします。

〔「了承」と叫ぶ者あり〕

○議 長 日程第2、会期の決定についてお諮りいたします。本臨時会の会期につきましては、去る1月30日の議会運営委員会において協議をいただき、結果お手元に配付をした会期日程の表のとおりと決定をいただきました。つきましては、本臨時会の会期は、本日2月7日、2月8日の2日間としたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、本臨時会の会期は、本日2月7日から2月8日の2日間と決定をいたしました。

○議 長 日程第3、諸般の報告を行います。報告はお手元に配付のとおりといたします。

○議 長 日程第4、報告第1号 所掌（所管）事務に対する調査の報告について（継続調査）を行います。議会運営委員長・塩谷寿雄君の報告を求めます。

議会運営委員長。

**○塩谷議会運営委員長** おはようございます。議会運営委員会の報告をさせていただきます。期日は1月30日、8名の全員出席ということで議会運営委員会を行いました。皆様のお手元に配付のとおり、今回の付議事件についての（１）から（４）までの、議会運営委員会での審査を行い、今臨時議会に至っているものでございます。以上で報告のほうを終わらせていただきます。

**○議 長** 議会運営委員長の報告に対する質疑を行います。

〔「なしと叫ぶ者あり」〕

質疑を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なしと叫ぶ者あり」〕

異議なしと認めます。よって、議会運営委員長に対する質疑を終わります。ご苦労さまでした。

**○議 長** 日程第5、第1号報告 専決処分した事件の承認について（平成28年度南魚沼市一般会計補正予算（第7号））を議題といたします。本件について提案理由の説明を求めます。

市長。

**○市 長** 改めましておはようございます。第1号報告 平成28年度南魚沼市一般会計補正予算（第7号）につきまして、専決処分といたしましたのでご説明を申し上げます。

このたびの補正は、年末年始の異常少雪によりますスキー客の減少等に伴いまして、経営不振が懸念される中小企業者に対し、南魚沼市異常少雪緊急経営支援資金を整備して、1月18日から低利の融資を実施するためのものであります。

歳出では、中小企業金融制度事業費に緊急経営支援資金預託金として2億円を計上いたしました。また、信用保証料については全額を市が補給することとしましたが、現予算内で対応できる見込みであることから計上しておりません。

歳入では、異常少雪緊急経営支援資金預託金、元金収入に預託金と同額の2億円を計上いたしました。

以上により、歳入歳出予算総額にそれぞれ2億円を増額し、歳入歳出予算総額を340億22万4,000円といたしました。詳細につきましては総務部長に説明させますので、よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

**○議 長** 総務部長。

**○総務部長** それでは、第1号報告 平成28年度南魚沼市一般会計補正予算（第7号）につきましてご説明申し上げます。内容につきましては、提案理由の説明のとおり異常少雪に伴います緊急経営支援のための特別融資制度を設けるもので、昨年度に続き2年連続となるものであります。

議案3ページ、専決処分書をごらんください。第1条は、歳入歳出の補正額と補正後の総額を定め、第2条では債務負担行為を追加するもので、地方自治法第179条第1項の規定により、平成29年1月17日付で専決処分をさせていただいたものであります。

歳出につきましては、12、13 ページをごらんください。7 款商工費の 1 項 1 目商工業振興費に貸付金として計上し、歳入につきましては、前のページ、10、11 ページ、19 款の諸収入の 3 項 5 目に預託金元金収入として同額を計上するものであります。戻っていただきまして 6 ページが、第 2 条による第 2 表 債務負担行為補正で異常少雪緊急経営支援融資制度に係る損失補償についての債務負担を定めたもので、最終 14 ページはその債務負担行為に対する地方自治法施行令規則に基づく説明書で、その執行状況と見込みに関する調書であります。以上で第 1 号報告の説明を終わります。

○議 長 質疑を行います。

16 番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 6 ページの債務負担行為、損失補償ということで代位弁済額から差し引いた分、云々という説明がありますけれども、当初予算でも盛っていた部分が若干あったのですが、当初予算の中でこれに該当する部分というのは、まだ出てきていないというふうに思っております。そういう中で 2 億円を積み増しして備えをするということについて、この数字の根拠がよくわからないのですけれども、説明をいただきたい。

○議 長 市長。

○市 長 これにつきましては担当部長に説明をさせます。

○議 長 産業振興部長。

○産業振興部長 申しわけございません、2 億円の根拠ということでございましょうか。はい、ご承知のとおり、市長が説明いたしましたように、年末年始が異常少雪になりまして、スキー場あるいは関係のサービス業の方は、大変経営が苦しかったということでございます。それで、年末、いわゆるシーズンを前に用意したいろいろな資材等の支払が、通常ですと 1 月末に期限がくるというような状況で、それに間に合うような設定をいたしました。

2 億円という額の根拠ということでございますけれども、正直申し上げまして何かを積み上げたとかということではございません。昨年も同じような制度を創設いたしまして、市の負担が 2 億円ということでございましたので、私どもが 2 億円、金融機関が 2 億円、総額 4 億円あれば需要に応えられるのではないかとということで設定したものでございます。以上です。

○議 長 16 番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 そうすると、1 月末での支払ということに備えているのですけれども、2 月に入って 1 週間ほどたっているといっても、市のほうとしてそういう保証関係で融通をしてくれるのかという相談が、金融機関にあったのかはわかりませんが、商工観光課のほうにきているという事実があるのかどうか、そこら辺をお伺いします。

○議 長 産業振興部長。

○産業振興部長 1 月に制度が開始いたしまして、今まで 2 件で 1,000 万円の融資をいたしました。500 万円ずつ 2 件でございます。ちなみに、昨年度につきましては、最終的には 1 件 500 万円の申し込みでございました。以上です。

〔「終わります」と叫ぶ者あり〕

○議 長 8 番・中沢一博君。

○中沢一博君 思いのほか去年、ことしとかなり状況的に厳しい中で、件数が少ないわけでありまして。そこに関して私どもが云々という部分じゃないのですけれども、私が一番心配しているのは、申請した件数の中で、例えば——件数が少ないから多分ないと思いますけれども——信用保証協会の部分です。これが今までの一般的な部分だと、この信用保証の部分で却下されるということがあるのですけれども、この制度に関しましてそういう実態は今までなかったのかどうか。やっぱりせっかく融資するにも、金融機関のほうでそういう部分があるならば、本来の趣旨が違うわけでございますので、その点、件数という部分ですね。実態を見て、私はもう少しあっても不思議じゃない。これだけ大丈夫だということであれば、全然問題がないのですけれども、それをどのように見ておられるのかお聞かせいただきたいと思っています。

○議 長 産業振興部長。

○産業振興部長 件数が少ないというご指摘については、私もそのように感じておるところはございます。ただ、昨年の状況を見ますと、私どもは1件でございましたが、地域の金融機関さんが同じような制度をつくられてまして、積極的に営業活動と言っているのかどうかわかりませんが、活動をされたということです。詳細な額については教えていただいておりますけれども、私どもの10倍とか20倍以上の貸し付けの実績があったというふうに聞いてございます。

地元の金融機関さんが貸し付ける場合、あるいは私どもこの制度で貸し付ける場合につきましても、無条件で貸し付けるわけではなくて、当然、審査がございます。金融機関さんもリスクを負うわけでございますから、その審査に通れば信用保証協会のほうの審査も通るといようなことで、貸し渋りというようなことは、私どもはないと考えてございます。以上です。

○議 長 8 番・中沢一博君。

○中沢一博君 そうしますと、民間のレベルでかなりそういう貸してあるという件数が多いということなんですね。そうみたときに、私はこの制度というのはすごく有利な制度だと思っているのですけれども、その割には1件しかないということは、どうも趣旨徹底がなされていないんじゃないかという部分も懸念されるわけです。今後そういう部分に関して、どういうふうに徹底されようとしているのか、お聞かせいただきたいと思います。

○議 長 産業振興部長。

○産業振興部長 私ども、この制度をつくるに当たりまして、金融機関さんにお集まりいただきまして会議等もいたしました。その中で、当然でございますが、制度の周知等もいたしておりますし、ホームページ等でもお知らせをしております。今後も、その後、幸い雪が降って今のような積雪状態になってございますが、3月の末まで現在の雪がもつかどうかというところは、今の積雪状態だと少し微妙なところもございますので、また異常少雪とい

うような心配も出てくる可能性もございます。これからも積極的にPRをしていきたいと考えてございます。以上です。

○議 長 質疑を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、質疑を終わります。

○議 長 討論を行います。

討論を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、討論を終わります。

○議 長 お諮りいたします。第1号報告 専決処分した事件の承認について（平成28年度南魚沼市一般会計補正予算（第7号））は、提出のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、第1号報告は提出のとおり承認することと決定をいたしました。

○議 長 日程第6、第2号議案 工事請負変更契約の締結について（統合第1号 八海中学校建設（建築）工事 請負契約の変更について）を議題といたします。本案について提案理由の説明を求めます。

総務部長。

○総務部長 それでは、第2号議案につきましてご説明を申し上げます。本案は平成27年7月3日、第1回臨時会で議決をいただきました統合中学校建設事業費における八海中学校建設（建築）工事の変更契約であります。変更額は市長の専決事項の指定第3項で規定します議決された契約の金額の100分の5以内で、かつ1,000万円以内の額の増減を超えるため、地方自治法第96条第1項第5号の規定により、変更契約締結の議決をお願いするものであります。

議案1ページをごらんください。契約の名称は、統合第1号 八海中学校建設（建築）工事で、2契約金額の変更額は（3）の1,329万4,800円の減額であります。増減率にしますと1.1%の減であります。3の契約の相手方は、山崎・種村・新潟砂利・宮仲特定共同企業体で、代表者及び構成員は記載のとおりであります。

3ページから5ページまでが、建設工事請負変更仮契約書の写しであります。6ページが工事変更概要で、7ページから13ページまでが変更箇所を示した平面図及び立面図等であります。

6ページの工事変更概要をごらんください。2に変更の内容と金額、3に変更理由を記載しております。2の変更の内容に基づいて説明をさせていただきます。最初に校舎棟です。地業工事は工事着手後の地盤試験により、ラップルコンクリートから地盤改良に変更したもので、797万円の減額であります。図面では13ページの断面図になります。防水工事は図面

11 ページの赤い部分の屋上の一部と、プールの下となる屋上部分で、ウレタン樹脂防水から屋上の一部は施工単価が安く、安全で施工がしやすいパンデックス防水に、プールの下はコンクリートの亀裂にも柔軟に対応するパラテックス防水への変更により、131 万円の減額であります。次のサイン工事は、図面 12 ページ上段の北側立面図正面になりますが、中央やや右寄りの赤い丸で、玄関上に 1 つあるので、外壁面校章 1 か所 59 万円の減であります。雑工事、スクリーンは図面 9 ページの多目的ホールへの設置ほか、雪庇落とし等管理用タラップ、男子トイレの入り口からの目隠し、屋上プールへの冬季危険防止用の表示ポールの設置、校歌校名版等の取付工事などの追加で、555 万円の増額であります。

次の体育館棟は校舎棟と同様に地業工事の変更で、330 万円の減額であります。

自転車置き場建築工事は、当初入り口正面、図面 7 ページのグラウンドの中央、右外側の丸 3、丸 4 というところに計画をいたしましたが、駐車場を広く取りたいという理由から、従来の自転車置き場を使用することによる取りやめということで、1,234 万円の減であります。

プール施設工事は、図面 10 ページ、ウレタン塗膜防水からプール下の屋上同様パラテックス防水への変更ですが、プールサイドを追加したことにより 191 万円の増額であります。

外構工事では、安全帯、多目的広場植え込み工事等は、図面 7 ページの前面道路沿いの赤色のスペースや、玄関前の半円形の植え込み、そして既存校舎と増築棟の間にあります多目的広場中央の丸部分、赤く、ちょっと塗り忘れであります。既存樹木の植え込み工事やベンチの天端仕上げの変更等 203 万円の増額であります。侵入防止策設置工事は、安全帯への植え込みにより、前面道路のガードパイプ 10 基を減らし、143 万円の減であります。

最後の丸、造園及び外部雑工事では全て増工でありまして、建物周囲造園工事は図面 8 ページ、左側の自転車置き場下の横長の赤い部分、校舎を挟んで両側になりますが、それと図面中央上の長方形の右側の角を削った形の植え込みになります。次の用具室前階段工事は、同じく 8 ページの左下のスキー置き場とある部屋の上の赤い部分で、体育用具室として利用することになり、直接グラウンドに出られるようにするものであります。保健室前スロープ足洗い場も 8 ページの左下、多目的広場の右側、保健室のわきの赤い部分への設置になります。既設校舎西面擁壁工事は、図面 7 ページのグラウンド右下の縦長の赤い部分で、グラウンドを広くとるために法面をフラットにして擁壁で抑えるものであります。既設砂場撤去その他工事は、多目的広場とグラウンドの境界へのブロック設置などであります。最後のピロティ砂利敷き工事は、図面 8 ページ右側のピロティの下で、既設の自転車置き場から体育館の下を通して正面玄関に行くための通路とするための敷き砂利であります。

ここまでで造園及び外部雑工事、合計で 415 万円の増額であります。以上、工事変更に係る増減額の合計で 1,329 万 4,800 円の減額となるものであります。以上で第 2 号議案の説明を終わります。よろしくご審議の上、ご同意をいただきますようお願い申し上げます。

○議 長 質疑を行います。

1 番・田中せつ子君。

○田中せつ子君　　6 ページの変更理由の中に、自転車置き場が打ち合わせの段階で不要となったというふうにあります。今の説明で駐車を広げる必要ができたので、それで場所を変えたということになるのでしょうか。渡り廊下2のピロティを自転車置き場として活用すると、既存の自転車置き場を使うということだそうなので、これは不要となったということではなく、場所を変更したということになるのでしょうか。駐車を広げる理由と、変更になったということなのかどうかをお願いします。

○議　　長　　教育部長。

○教育部長　　私のほうでお答えさせていただきたいと思います。駐輪場につきましては、既存の城内中学校に現在ございます駐輪場を使おうということで、この協議につきましては、統合協議会というのがございまして、その協議会には建設部会がございまして、その中に各学校の校長先生も参加をいただいております。そういった中で、この設計のもとには協議した中で、3 中学を統合しますと、やはり城内以外の大巻、五十沢等、大分遠くからの保護者もお見えになる可能性もあるということで、会議をしたときに駐車の確保がこの敷地の中では難しいのではないかとというようなことで、現在ある駐輪場をうまく活用すれば、その駐車のほうを少し確保できるのではないかとということで提案があつて、検討をさせていただいたものです。

城内中学校の駐輪場は現校舎正面、反対側になるわけですがけれども、そちらのほうから入ってきたときに、体育館の右側のほうに約 100 台ぐらい入るようなスペースをもう確保してございまして、冬場は屋根を外して雪という形になりますけれども、夏場は 100 台ほど使えるということで、その部分を活用する中で、じゃあ、新しい校舎の正面玄関のほうからどう入ってくるかというルートとしまして、新校舎と体育館の間の通路が舗装してございますので、そこを押して通って、さらに体育館のわき、そこから今ほどありました渡り廊下の下、そのところを砂利を敷くような形で、ぬかるみにならないような形で押していかれるようにして、既存の体育館の下を通して駐輪場に向かうということで、十分対応はできるのではないかとということです。統合協議会の中では、今、スクールバスの問題も検討をしております。駐輪場については今現在、城内中学校の生徒数からいって 155 名いらっしゃるのですが、そのうちの 70 名程度が自転車通学という形になっていますので、そのところで十分、対応はできるのではないかとということでこういう形になりました。以上です。

○議　　長　　1 番・田中せつ子君。

○田中せつ子君　　今の説明で変更になった部分はわかるのですがけれども、この変更理由の一番下に、渡り廊下2のピロティを自転車置き場として利用するための砂利敷きというふうになっています。通常は 70 名ぐらいの利用であっても、長い休みの夏休みとかには部活とかもあつて、そのためにピロティの下も必要になって、通るだけではなくて自転車を置くのだらうと思うのですがけれども、そこが砂利を敷くということです。そこにとめるのは、下が砂利で、自転車置き場って全部が倒れているようなのをよく見かけるのですがけれども、もし、生徒がそこにいたときに、自転車が全部倒れるようなことがあったらとても危険だなという

ふうと思うわけです。その辺の安全面は不安はないのでしょうか。お願いします。

○議 長 教育部長。

○教育部長 この説明、ちょっと大変恐縮なのですが、舌足らずの部分があるかと思うのですけれども、基本的には既存の駐輪場を全部使うという形で考えておりまして、その渡り廊下の下はあくまでも通路という感じで、通路として利用するという意味での表現で、そこに自転車を並べて置くということは今のところは想定してございません。十分なスペースがございますので、そちらのほうは。

それと、先ほど言いました城内中学校 155 名中 70 名というのは、クラブ活動の対応の生徒も含めて、それだけ今、自転車通学を許可しているということですので、この数がそれほどまた増えるということではないかというふうに思っております。以上です。

○議 長 1 番・田中せつ子君。

○田中せつ子君 それでは、この説明の中の自転車置き場として利用するため砂利敷きという部分は、もう少し訂正していただいたほうが資料としては正しいのではないかと思いますので、できましたら後ほどお願いいたします。以上です。終わります。

○議 長 答弁はよろしいですか。答弁はよろしいそうですから……（何事か叫ぶ者あり）この一番下の資料について、ちょっと説明をもう一回、補足してください。

教育部長。

○教育部長 渡り廊下 2 のピロティを自転車置き場として利用するため、既存の自転車置き場を利用するための砂利敷きという通路という形で捉えていただければありがたいというふうに思っていますが、押して歩くという形です。よろしいでしょうか。

○議 長 17 番・中沢俊一君。

○中沢俊一君 これで大体、工事関係についての変更は出てきたというふうに理解してよろしいかと私も思っておりましたが、あとこれについて付帯の事業があるわけです。野球場であるとか、土地の取得であるとか。ここまで出たものですから、総額でこの八海中学校の改築関連の工事予算、これについて総額でどれぐらいになるのかわかりましたらお知らせいただきたいのですが。

○議 長 教育部長。

○教育部長 今ほど、まだ実はこれから電気工事、機械工事等の変更契約の準備中ということもありまして、総額については正直ちょっとまだ調整が必要な部分もございますので。大枠ということであれば、ちょっと調べて報告をさせていただきたいと思います。以上です。

○議 長 質疑を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、質疑を終わります。

○議 長 討論を行います。

〔「なし」と叫ぶ者あり〕

討論を終わることにご異議ございませんか。



〔「異議なしと叫ぶ者あり」〕

異議なしと認めます。よって、討論を終わります。

**○議 長** 第2号議案 工事請負変更契約の締結について（統合第1号 八海中学校建設（建築）工事 請負契約の変更について）は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なしと叫ぶ者あり」〕

異議なしと認めます。よって、第2号議案は原案のとおり可決されました。

**○議 長** 日程第7、第1号議案 南魚沼市地下水の採取に関する条例の一部改正についてを議題といたします。本件について提案理由の説明を求めます。

市長。

**○市 長** それでは第1号議案 南魚沼市地下水の採取に関する条例の一部改正につきまして提案理由を申し上げます。本件は平成29年1月19日、地方自治法第74条第1項の規定に基づき、代表者 鈴木省三氏ほか2名の方から、法定署名数973名を超える1,749名の有効署名をもって、南魚沼市地下水の採取に関する条例の一部を改正する条例の制定請求書が提出され、これを受理いたしましたので、地方自治法第74条第3項の規定に基づきまして、意見を付して議会に付議するものであります。

ここで、本件に対する私の意見を申し上げますので、議案書の4ページをお開きいただきたいと思います。

意見書。平成29年1月19日付、地方自治法第74条第1項の規定により、法定署名数973名を超える1,749名の有効署名をもって、南魚沼市地下水の採取に関する条例の一部を改正する条例——以下「改正案」と呼びます——の制定請求書が提出されましたので、地方自治法第74条第3項の規定により、以下のとおり意見を申し上げます。

現在の南魚沼市地下水の採取に関する条例——以下「現行条例」と呼びます——は、3町合併による南魚沼市が誕生した平成17年に制定されたものでありますが、内容としては旧3町の地下水条例を引き継いだものとなっております。特に、旧六日町の地盤沈下区域につきましては、平成6年に井戸の新規掘削を規制してから20年余りが経過しており、地盤沈下の抑制においては一定の効果を上げてきたものの、この規制が市民生活に対し大きな苦難を強いてきたことも事実であります。このまま規制を続けた場合、中心市街地の空洞化による経済的・人的損失が懸念されるところであり、地盤沈下の抑制とともに、市民生活の確保、生命、財産の保全についても、最優先の課題として取り組まなくてはならないという認識であります。

このことから、昨年9月議会定例会におきまして、「地盤沈下区域の消雪用井戸の掘削を認め、引き続き総揚水量の規制をする」との基本方針を提示し、現在、市において現行条例の抜本的改正を検討しているところであります。

提出者の改正案につきましては、基本的には、このような市の認識と共通するものであると考えますが、次の点で同意しかねる部分がありますので意見を申し上げます。

まず、改正案においては、ストレーナー深度を 80 メートル以上とすることで、地盤沈下を抑制できるものと考えておられるようですが、昨年 8 月に長岡技術科学大学及び新潟大学の教授方から伺った意見では、必ずしも表層部と深層部の透水層は分離しておらず、上下でつながっている部分も多く、深層部からの取水に切りかえただけでは、地盤沈下の抑制効果は薄いという結論でありました。このことから、地盤沈下対策においては、深層部からの取水に切りかえるとともに、他の効果的な節水対策を施す必要があるものと考えているところであります。

改正案においては、この節水対策が欠如しており、仮にこの改正案が施行された場合は、地盤沈下対策としての効果は低減するのではないかと考えております。

現在、市が進めている現行条例の改正作業におきましては、高感度降雪検知器や節水タイマーなど、高度の節水機能を持った機器の効果的な活用、公共用井戸の節水及び沈下区域以外の地域における節水対策など、総揚水量を規制する方法と合わせ、規制区域の線引きの見直し、消雪対象面積の適正範囲、1 平方メートル当たりの適正散水量及び井戸の共同設置の方策など、総合的に現在の規制のあり方を見直すこととしており、そのことをもって、地盤沈下の抑制と市民生活の安全確保を両立させることが可能になるものと考えております。

提出者の改正案には、ある程度理解をすることはできるものの、現在市が進めている現行条例改正作業の結果を踏まえた上で、改めてご判断をいただきたいと考えているところであります。

平成 29 年 2 月 7 日、南魚沼市長 林茂男。これを意見書といたします。

なお、改正案の詳細につきましては、市民生活部長に説明をさせますので、よろしくご審議いただきますよう、お願いを申し上げます。以上であります。

○議 長 市民生活部長。

○市民生活部長 では、直接請求による南魚沼市地下水の採取に関する条例の一部改正についてご説明を申し上げます。議案書の 3 ページをお開きください。第 74 条第 1 項の規定による別紙条例案という題名が付されたページであります。これは代表者らが署名を求める際に、署名者等に提示をいたしました改正案そのものであります。本改正案は、通常の改正条文の形式を取っていないものであることをあらかじめ申し添えさせていただきます。

改正の趣旨につきましては、規制区域及び揚水設備の許可基準について定めております条例の第 9 条第 1 項の規定に基づきます、別表第 2 の記載を変更するものであります。

題名の下、第 1 行目から数えまして第 7 行目にあります 4 吐出口径 32 ミリメートル以下までが現行条例に規定する地盤沈下区域の規制内容であります。これを第 8 行目以下の記載の内容に改正するというものであります。第 8 行目は、「地盤沈下区域、周辺区域を含めて、次の基準を満たすもの」という文言がありますので、ここには記載をされておられませんけれども、周辺区域を含めて改正をするものというふうに理解がされます。

議案書の 7 ページをお開きいただきたいと思います。現行条例と改正案との関係性を周辺区域の規制内容とあわせまして、新旧対照表という形でまとめてみました。この資料は市に

において作成をしたものであります。表の左側、改正案の揚水設備の基準についてでありますけれども、まず、ケーシング口径については、現行条例が地盤沈下区域について「80 ミリメートル以下」、周辺区域が「100 ミリメートル以下」と規定をしておりますが、これを「150 ミリメートル以下」とするものであります。

その下のストレーナー深度は、現行条例には地盤沈下区域、周辺区域とも規定がありませんけれども、これを「80 メートル以上」というふうに規定をする案であります。

その下、定格出力につきましては、現行条例が地盤沈下区域及び周辺区域とも 1.1 キロワット以下と規定をしておりますけれども、これを「5.5 キロワット」とするものであります。

その下、吐出口径につきましては、現行条例が地盤沈下区域及び周辺区域とも 32 ミリメートル以下と規定をしておりますけれども、これを「50 ミリメートル以下」とする改正案であります。

また、「共同井戸は、この限りではない」という文言がありますので、共同井戸の定義は不明でありますけれども、これにつきましては一切の規制がないものというふうに解釈がされるところであります。

なお、現行条例にあります深度、これは井戸の掘削深度のことですけれども、これを「40 メートル以下」とする規定は、改正案においては削られております。

また、地盤沈下区域について規定をします、地下水還元熱交換方式による揚水設備の規定も削られております。また、施行期日等に関する附則はつけられておりません。以上で改正案の説明を終了いたします。

○議 長 提案理由の説明が終わりました。

次に請求代表者の意見陳述付与の決定を行います。地方自治法第 74 条第 4 項により、議会は直接請求代表者に意見を述べる機会を与えなければならないと規定されております。また、同法施行令第 98 条の 2 第 2 項によりまして、請求代表者が複数であるときは、議会は意見を述べる機会を与える代表者の数を定めるものと規定されております。

○議 長 お諮りします。本件に関する地方自治法第 74 条第 4 項の規定に基づく意見陳述については、2 月 7 日、午前 11 時から議場において行うこととし、意見陳述を行う請求代表者の数を 2 名以内、意見陳述の時間を 1 名につき 15 分以内としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、請求代表者による意見陳述を、本日 2 月 7 日火曜日、午前 11 時から議場において行うこととし、意見陳述を行う請求代表者の数を 2 名以内、意見陳述の時間を 1 名につき 15 分以内とすることに決定をいたしました。

○議 長 意見陳述の開始の 11 時まで休憩といたします。なお、再開は 11 時ちょうどでございます。

〔午前 10 時 13 分〕

○議 長 休憩を閉じて会議を再開いたします。

[午前 11 時 00 分]

○議 長 ここで、先ほど 17 番・中沢俊一議員に対し保留をしておいた答弁について、教育部長から発言を求められておりますので、これを許します。

教育部長。

○教育部長 先ほど中沢議員よりご質問のありました、統合八海中学の総経費の見込みでございますけれども、平成 25 年度設計コンペから始まりましたこの事業につきましては、途中、継続費等、土地購入費等がありまして、それから、今後 3 月補正、平成 29 年度当初予算等を見込みますと、総額 25 億 5,000 万程度を見込んでございます。以上です。

○議 長 それでは、第 1 号議案にかかる請求代表者の意見陳述、議案、質疑、委員会付託を議題といたします。初めに、条例制定（改廃）請求代表者の意見陳述を行います。本日意見を述べていただきますのは久保田功さん、岡村望さんの 2 名でございます。

それでは、最初に久保田功さん、入場の上、演台にご登壇いただき、意見を述べていただきたいと思います。なお、意見陳述の時間は 15 分以内となっておりますので、よろしくお願いいたします。それではお願いします。

[久保田功さん入場]

○久保田功さん 私、久保田と申します。85 歳の老人でございまして、各器官が極めて劣化しています。耳は補聴器、目は白内障、頭は少々ぼけているかも知れませんが、失礼なことは申し上げることのないように注意いたします。民主主義の殿堂である神聖な議場で、1,749 人の署名者の代表として意見を述べる機会を与えていただきまして、まことにありがとうございます。私は先ほども言ったように、このような席での発言は極めて不慣れです。そのためにあがって、言いたいことを落とすこと、さらに議員の皆様失礼な発言があってはなりません。このような配慮から私は原稿を用意してきましたので、それを読ませていただきます。

概略、5 つの点を申し上げたいと思います。1 つは、大塚教授、栗田教授、ト部淳教授の昨年の報告書のこと。それから、2 つ目、地下水の発生の場所と流れについて。3 つ、六日町の中央商店街の推移について。4、採取の施設、採取の施設の能力の点。それから 5 つ、法律の歴史の 5 点から説明させていただきます。

まず、昨年の報告書、本会で昨年の 9 月 6 日に開かれた定例議会に提出された報告書を読ませていただきました。それによると結論として、1 つ、沈下区域、周辺区域を分けても、地下はつながっているの、沈下区域だけを規制しても効果はないと。2 つ目、同区域を規制しても、水源の上流で大量取水をすれば、沈下を起こす恐れがある、この 2 つの結論が示されていたと思います。ただ、沈下が悪であるという、このようなコメントは書いてなかったことを私は確認いたしました。

それでは次に、地下水の発生の場所と流れについて。地下水は宅地や道路に降った雨が地下に浸透してたまったものではない。降った雨の 90%は流出してしまいます。また、田や畑の降った雨は、流量を調整しながら 60%は流出して川へ流れます。したがって、降った雨が

地下に浸透してたまったのが地下水でないことを、まずもって理解していただきたい。それでは2つ目として、地下水はどこで発生するか。これは上越国境の分水嶺に降った雨が、花崗岩の山肌と大地の間のすき間を伝って地下に入り、それが魚野川、登川のその地下を伝って平地に流れついたのが、この地方の地下水です。流域面積は極めて広い、毛戸沢水系では仙ノ倉山、万太郎を経て、谷川、茂倉、蓬峠まで。大源太川水系では、蓬峠から七つ小屋、大源太山で、ここに降った雨が湯沢で合流して魚沼盆地に流れ下ってきます。

一方、登川水系では、清水峠、柄沢山、米子の頭、表巻機、牛ヶ岳、割引岳までで、この地下水は登川の地下を伝って、島新田で魚野川水系の地下と合流します。合流した地下水は、大月、雲洞の耕作地、長表、三ツ屋を中心にした水田地帯に流れ込み、寺が鼻の根でせきとめられて、あの辺一体の水田の中に浸出して、しみ出しています。これはあの辺の水田を1メートル50掘ってみれば、もう何十年も前のヨシ、あるいはガマ、そういう植物が出てきます。全然腐敗をしていません。合流した地下水は、今言った水田地帯に流れ込みますが、そこでしみ出しきれない水は、龍言の裏の羽黒鼻でまたせきとめられ、東泉田、西泉田に浸出し、しみ出しています。

参考までですが、今の三国川ダムからの取水以前の六日町の上水道の水源は、この地帯の地下の水をくみ上げて供給をしていました。これは参考です。地下水でさらにそこを、寺が鼻の先を曲がって、さらに下った地下水は、今度は銭淵公園で坂戸山の根にぶつかって、あの銭淵公園の中にしみ出しています。そこをさらにくぐって下流に流れた地下水は、大久寺が今ある、もともとあそこはあらぶちという大きな淵がありました、そこにしみ出しています。ということは、余分の地下水は、支流や魚野川の各所にしみ出しているということです。それで、どこにしみ出しているか、必要があれば、ここに出ているということ、私がいつでも案内いたします。

魚野川の流れている場所は、もともと日本の本州がフォッサマグナ海峡で分断され、南西日本と北東日本に分かれていたときの南西海岸です。新発田から小出に向かった構造線、その延長線に魚野川があります。もう10年ぐらい前になりますか。日本地震予知連絡協議会が魚野川の断層帯で地震が発生する確率があるということを発表しています。先ほども言った余った地下水は、この断層を伝って地上にわき出しています。それが先ほど言った場所、あらぶち、あるいは銭淵公園。あれが魚野川断層帯です。この我々が今まで使っている地下水——今の地下水です——この水の量は、流域面積掛ける雨量で、膨大な地下水があることを認識しておいていただきたいと思います。

次、中央商店街における商店街の推移について。中央商店街は坂戸橋の入り口から上田方面に向かって、以前、上町郵便局のあったところまでの約250メートルの区間です。ここには現在、路面に面した建物が40軒あります。このうち、人の住んでいる家が28軒、店舗や事務所専用、さらに空き家店舗、その他の建物が10軒です。2軒はちょっとわからない、不明です。人が住んでいる28軒のうち、1人で暮らす家が9軒で、男性世帯が2軒、女性世帯が7軒あります。いずれも高齢者です。人が住んでいる家でその他の家では、後継者のいる

家が3軒しかありません。あとは夫婦2人等の家です。

この同じ場所に昭和50年ごろには55軒の家がありました。商店を営んでいる家が39軒、専用住宅が14軒、その他が2軒でした。当時はバブルの入り口のころで、町の中心という立地条件のよさもあって、人の往来も激しく、活気に満ちていました。商店、その他一般住宅を含めて、親、子供、孫がそろって暮らす、どの家もアットホームで、町全体が温かいぬくもりを感じる雰囲気を醸し出していました。

この六日町の商店街は街道町で、その特徴として屋敷の間口が狭く、奥行きが深いのが特徴です。地型からして、家は切妻式建屋で、奥行きの長い建物が特徴です。隣との間は、軒が密着し、一人が通るのもやっとのすき間しかありません。屋根に積もった雪は、家と家の横に落とすことは許されません。家の前か、後ろに運ばなければならない。このため多くの労力がかかり、それにつれて費用も多額になります。

かつての商店街のにぎわいがなくなったのは、一人、六日町の商店街ではなく、全国的な傾向です。新潟の古町商店街のさびれ方はひどいものがあります。これはモータリゼーションと合わせ、大型ショッピングセンターの出現で、一店舗に必要なものが何でも買いそろえられる便利さが受けて、大型店舗に客が流れたことが一番の大きな原因だと思います。六日町には平成8年ごろジャスコができました。さらに駅裏には原信ができました。冬も雪の積もらない施設の広い駐車場を抱え、日用品では食料品をあわせて一店舗で……。

**○議長** 陳述の途中ではありますが、指定された時間を過ぎておりますので、まとめをお願いいたします。15分と指定されておりますので。

**○久保田功さん** すぐ便利さが受けて、ショッピングの行動が変わったことが一番です。それにしても最近の商店街のさびれ方はひどいものです。商店街の続きの一角は、かつて18軒の家が並んでいましたところが、今は同じところに8軒しかありません。先日、ある有力者に会ったとき、その人の話として、ことし、井戸がかれて水が出なくなったと。とてもこんなに暮らしにくい町はない、この町から出ていくことを決意したと、怒りを込めて私に言っていました。私はまた1軒なくなるのかと背筋がぞくっとするさみしさを感じました。

先ほど申しましたが、六日町商店街は街道町の特徴から、縦屋で前後に長い家の特徴です。屋根には雪。屋根に積もった雪は家と家の間に落とすことはできず、前か後ろに運ばなければなりません。さらに、家の前方は道路ですので、ここに落とした雪は排雪しなければなりません。費用は1回の雪おろしで30万から50万円かかります。先ほどひとり暮らしの家が9軒と申し上げましたが、このほか夫婦2人を含め、2人暮らしの家が9軒あります。ひとり暮らしの家と合わせて合計18軒ですが、この人たちは女性2人、または老人で、若い男の労力はなく、自分たちで雪をおろすことはできません。人頼みをしなければなりません。

最近はこの雪おろし人夫がいません。以前は農家の人が農閑期の金稼ぎに各自、受け持ちの家を責任をもって雪を掘っていましたが、農家にとって機械力のない時代、農作業は全て人力で処理をしていましたので、今と違って力仕事には慣れており、雪おろし作業は大した労力、負担ではなかったのです。むしろ、冬の仕事のないとき、現金収入を得られるので、

家業の助けになると喜んで雪掘りをしました。最近では農業は全て機械力であります。雪をおろすことは重労働になります。また、降雪の特徴として、町全体が同じく、同時に雪おろし作業をしなければなりません。金の負担に耐えられる人でも、雪おろしをする人夫を見つけることができなくなっています。冬を迎えるときの心労は、労力、経済、さらに精神的な負担が大きく、耐えがたい苦痛を感じさせます。

先ほど紹介した故郷を捨てる覚悟を決めた人の心境がよくわかります。市ではこれまで町の雪対策として流雪溝の整備を進めてまいりました。経済的に恵まれ、機械力、若い労力のある人には、以前と比べて流雪溝の利用で雪の処理には大きく役立っています。その点、ありがたいのですが、流雪溝は線の雪処理でしかきません。残念ながら面の処理はできない。おばあさんや老人にとって肉体的にスノーダンプで流雪溝に雪を投入する作業はできません……。

○議 長 まとめに入ってください。時間ですので、まとめに入ってください。

○久保田功さん どうしましょう。途中でやめますか。では……

○議 長 ちょっと諮りますけども、時間を延長してもよろしいでしょうか。

〔何事か叫ぶ者あり〕

時間 15 分という、時間制約をしておりますので、なるべくまとめに入っていただきたいと思います。

○久保田功さん はい、わかりました。それでは、今のを飛ばしまして、この署名活動を始めた経過。最初始めたのは平成 26 年からでした。そして、昨年 5 月からこの署名活動について推進をしてきました。決して最近思いついてやったのではないということ。それから大切なことは取水設備の能力ですので、そちらのほうに移らせていただきます。先ほども大学教授の話として、沈下区域に当たる、私どもが提案した地下水採取の施設設備は、塩沢第 2 地区で許されているその設備と同等のものを考えて、改正案として提出してあります。

その理由は、沈下区域の住宅の密度が、塩沢町部と六日町が同等であるということ。この地区の地下水の流れは沈下区域の上流であって、極めて昨年のその報告のときも、その中で上流で地下水を大量に採取した場合、沈下区域で沈下が起きる恐れがあるとの報告のとおり、沈下区域より、採取は有利にあります。沈下区域にも影響を与えます。地下水採取に関する条例第 1 条の目的に沿って、本来であれば同量の地下水を採取するには、下流の不利を補うためには、同等以上の設備が必要なのですが、この能力でとめておきました。塩沢の第 2 地区の取水設備と同じ、同等の能力の設備をさせていただきたいと思います。

あとはまとめに入ります。ここで私が言うまでもなく、今まで述べてきたことは皆様方には百も承知のことと思います。あとはこれから実行あるのみです。皆様の温情に期待して、私どもを雪の苦しみから解放していただきたいと思います。皆様の意思に私どもの運命がかかっています。市の発展か、衰退かもかかっています。C C R C もよいですが、まずここに住んでいる人が逃げ出さないで、幸せに暮らせる環境を与えてください。私心を捨てて、市民の幸せのために、公益の考え方に立って、よろしく配慮をしていただきたいと思います。

以上で終わります。大変時間をオーバーしてご迷惑をかけて申しわけございませんでした。

○議長 長 久保田功さん、大変ご苦労さまでした。退場していただいて結構でございます。

〔久保田功さん退場〕

続きまして岡村望さん、入場の上、演台にご登壇いただき、意見を述べていただきたいと思います。

〔岡村望さん入場〕

○岡村 望さん 皆さんこんにちは。今ほど久保田さんがお話をされました。ちょっと時間の都合で、なかなか思ったことをいえなかったので、改めて私のほうでご説明申し上げます。

このたびの直接請求に際し、まずは請求の要旨を読み上げさせていただきます。南魚沼市地下水の採取に関する条例制定改廃請求の要旨。「この永遠なる旅路は往く人ばかり、帰って謎を明かしてくれる者は誰も居ない。気をつけて、この旅籠に忘れ物をするな、出たが最後、二度と再び帰れない」これはペルシャの詩人オマル・ハイアームによる、「ルバイヤード」からの抜粋になります。市民全員に時間は等しく流れる、過ぎた時間は二度と巡りこない。今の時間を幸せに生きていきたい。生きている者の願望である。

ところが、本来、地域に住む住民の公共の福祉の充実を図らなければならない地方公共団体の政策で、幸せをつかむことができないとすれば、まさしく悲劇である。南魚沼市の地下水の採取に関する条例は、地盤沈下区域に住む住民にとっては、がん細胞を抱えた患者に等しい。時間とともに家族との幸せをむしばんでいく。沈下区域に家を持つことは、財産を持つことではなく、命を奪うがん細胞を持ったと同じ。時とともに、街が壊れ、家族が壊れ、家が壊れていく。求めてやまない人の幸せが壊れていく。市街を人の住まない藻が生え、動物がばっこする荒野に変えて、地盤を守ることには何の意義があるのか。二度とふたたび巡ってこない時間の中で、旅籠に幸を忘れて出たくない。

ギリシャの哲学者プラトン。「良い政治は、よい王様による政治。次に良いのは、よい貴族による寡頭制、次によいのは、民主制。悪い政治は、民主制。それより悪いのは、悪い貴族による寡頭制。一番悪いのは、悪い王による独裁政治」良い政治も、悪い政治も、制度ではない。政治を行う人による。時の偶然の一致から、不幸な現状を嘆いても改善しない。憲法が保障した「幸福の追求権」と同法第92条の地方自治法の本旨に沿う住みやすい町をつくるため、南魚沼市地下水の採取に関する条例の改正を請求するものであります。

そして、現在の南魚沼市地下水の採取に関する条例において、地盤沈下区域での揚水設備の基準は、次の1、または2の要件を満たすものとあります。「1、地下水還元熱交換方式による揚水設備であって、地下水を空気に接触させないもの」「2、地上式揚水機を使用する揚水設備であって、次の基準を満たすもの」「1、深度40メートル以下」「2、ケーシング口径80ミリメートル以下」「3、定格出力1.1キロワット以下」「4、吐出口径32ミリメートル以下とあるもの」を、次の内容に改定を要望するものであります。地盤沈下区域・周辺区



域を含めて、次の基準を満たすもの「1、ケーシング口径 150 ミリメートル以下」「2、ストレーナー深度 80 メートル以上」「3、定格出力 5.5 キロワット」「4、吐出口径 50 ミリメートル以下」「共同井戸はこの限りではない」以上であります。

また、この基準については特別なものではなく、本条例の塩沢第 2 区域の設置基準と全く同じ内容になっておりますことをご承知いただければと存じます。

さて、私は市内の下一日市に居住しており、会社は六日町の地盤沈下区域内において不動産業を営み、賃貸ビルを所有管理しております。自宅はこの条例内ではその他の地域に該当いたしますので、沈下区域ほどの規制はございません。水量も豊富で、かつ水質もよく、とても恵まれた地下水環境だと思います。ふだん日中、家には誰もおりませんので、冬場は自動感知器センサーをセットしておけば、雪が降れば自動でスイッチが入り、地下水が出て、きれいに雪を消してくれます。一方、六日町の会社の建物は昭和 61 年に建築し、同時に井戸を掘削しておりますので、建物も井戸もことしで 31 年目になります。

市内の異なる地域に建物を持ち、管理している立場からすれば、この条例の不平等さを痛切に感じるが多々あります。例えば、自宅で井戸が故障した場合、万が一、井戸の寿命が原因であったとしても、経済的負担は別にして、掘り直しができるという絶対的な安心感があります。片や、会社の井戸の場合は、年々鉄分を多く含んだ水質でケーシングやストレーナーが劣化し、砂や砂利が多く出るようになり、また水量も乏しくなり、31 年の歳月が経過していることを考えると、いつかれてとまってしまってもおかしくない状況にあります。万が一の場合には掘り直しがきかないわけであり、実際にそうなったときのことを考えると、猛烈な不安を覚えます。

現行の条例下においても、公共という名目のもとに、地盤沈下区域内であっても道路や公共施設には大型の井戸が当たり前のように掘削されてきた現実を、私たちはどうすることもできなく、あきらめの気持ちで黙認してきました。どうして公共のものはよくて、民間のものはだめなのか、そんな不公平感を常に抱いておりました。

本条例第 4 条の 5 には、市は公共施設の消雪に伴う揚水設備の設置について、可能な限り地下水に依存しない方式の採用や、既存設備の転換に努力するものとする」と記載がございますが、最後の文面、「努力するものとする」という、行政にとってはまことに都合のいい解釈にとどまっていることがわかります。

皆様、これから私が申し上げることを、自分に置きかえて想像してみてください。この地域で建物をつくるときは、必ず雪のことを考えて設計をいたします。誰しも建物を建てた後で、可能な限り除雪の手間がかからないようにしたいものです。これは当然のことです。みずから購入した土地に建物をつくり、みずからの費用で井戸を掘り、毎年冬も快適に過ごしていたとします。しかし、あるとき、その井戸が使えなくなってしまったときにどうしますか。すぐに井戸屋さんか設備屋さん、もしくは電気屋さんを呼んで、修理を、と考えると思います。

しかし、その結果、井戸を掘り直さなければ使うことができないとわかった場合であって

も、現行条例下の地盤沈下区域においては、それは一切できないのです。地下水で消す前提で設計し、建築した建物でありながら、しかも、自分の土地で、であります。雪を捨てる場所もなく、雪が落とせない形状の屋根であったとしてもです。途方に暮れ、絶望のふちに立たされたような気持ちになることでしょう。

例えば、過去に一度掘った井戸が絶対にかれないという前提だとすれば、同一敷地内に新規掘削を認めないというのはわかります。使っていた井戸がかれてしまった場合に、掘り直しができないという現行条例の内容は、実際の雪の処理にかかる物理的、経済的な問題や、地下水以外の消雪方法を選択するにはあまりにも非現実的過ぎる現況を踏まえて、改めて冷静に考えてみますと、この条例があまりにも乱暴で、不平等な内容なのではないかという気がしてなりません。

さらに言えば……。失礼しました。さらに言えば、雪は時に人の命をも奪います。この地域に限ったことではございませんが、毎年、雪掘りの最中に事故が起こり、尊い命が奪われた報道を耳にすることが後を絶ちません。これを言うてしまうと、極論になってしまうかもしれませんが、この地域のような地盤沈下で人が亡くなることはまずないと思います。片や、除雪作業など雪が原因で亡くなってしまった命は数多くあります。雪によって奪われる人の命と、地盤沈下とをてんびんにかけるのは適切ではないのかもしれませんが、市の防災や減災の観点から言っても、井戸規制を改定することによって、救われる命が増える確立は間違いなく上がるはずです。逆を言えば、この現行条例を放置することによって、除雪作業等によって尊い命が奪われてしまう可能性もあるということも忘れないでいただきたいと思います。

最後に、きょうはこのような機会を与えていただき、まことに感謝いたします。今、私たちが述べさせていただいていることは、自分たちだけのことを考えているではありません。この署名活動を始めたとき、不動産会社が自分たちの商売のためにやっているのではないのか、などの声も耳にしました。ですが、私たちは決してそんな小さなことで動いているわけではありません。不動産業を営む中で、企業を誘致し、あらゆる世代に土地や建物を供給する立場から、地盤沈下区域から人が離れ、どんどん中心部が空洞化していく現況を一番間近で見てきたからこそ、これではいけないと立ち上がったのです。

私たちの後ろには、雪で本当に困っている大勢な市民の声、1,749 人の声があることをどうか絶対に忘れないでください。そして、雪が降っても安心して暮らせる南魚沼市になれるよう、期待を込めましてこのたびの意見陳述を終わらせていただきます。大変失礼な物言いもあったかもしれませんが、どうかご容赦くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。以上であります。ありがとうございました。

○議 長 岡村さん、ご苦勞さまでございました。退場してもらって結構でございます。

〔岡村望さん退場〕

○議 長 以上で請求代表者の意見陳述を終了いたします。

○議 長 これより質疑を行います。質疑は大綱質疑とし、担当委員会で付託議案の審査を行う方は、ほかの人に質問の機会を譲るようお願いをいたします。

18 番・岡村雅夫君。

○岡村雅夫君 今ほどの議案について、大きくは3点伺います。今ほどの説明等でありますと、市の方向性は深層部からの取水に切りかえ、他の効果的な節水対策を施す必要がある。直接請求への市の意見は、節水対策が欠如しており、地盤沈下対策としての効果は低減するということが前提になっておると思います。

そうした中でまず1点は、この1,749人の署名の重さについて、市長はどう考えておられるのかひとつ伺います。

大きく2点目でございます。市は、井戸規制の廃止、掘削を認め、総揚水量の規制の方針が示されております。私は条例改正というのか、規制の強化であるか、そこら辺がわかりませんが、現条例の効果と反省点については、一定の効果があったというような話をしておりますけれども、私はこの条例は欠点があったということを以前に申し上げたことがあります。新規掘削の禁止であって、期限を切って井戸の廃止を進めていく条例ではなかったということであります。これがもし、10年をめぐりというような形で政策展開ができたとしたならば、私はもう少し違った環境ができていたのではないかというふうに考えています。

国調、あるいは都市計画、それに伴う区画整理、都市計画等、そして雪に耐えられる屋並み、そういう問題もやはり市がつかさどるべき問題ではなかったかというふうに考えています。改正の方向を示された、ここに至ってであります。環境が改善されたのか、あるいは条例がなくても対応ができる段階を迎えたと、これが前提になれば、この規制は緩和すること、廃止することはできないのではないかというふうに思います。なぜならば、現状で22年間で、654ミリメートル、年間29.7ミリメートルが沈下しています。そして市の方針は、目標は20ミリメートルと、10年間で20センチメートルということを行っています。今後解除されますと、井戸の本数は私は倍増すると思っております。そうした中で、市の方針としての総揚水量の規制は可能と考えているのかどうか。ひとつそこをお聞きいたします。

もう1点は、先ほど市長が言いましたが、高感度検知器とか、そういった言い方をしていますけれども、これらの井戸の散水量まで規定したいような意見の中の内容があります。けれども、この改正を9月にやるとするならば、9月までにやるということになれば、この高感度節水タイマー、公共井戸の節水、地盤沈下区域以外の節水対策、規制区域の見直し、消雪対象面積の適正範囲、適正散水量、井戸の共同設置、これらまで、この約半年です、半年の段階で、9月議会に間に合わせることができるのか。どこまでその作業が今、進んでいるのか。そこをやはり明らかにしていかなないと、ここでの私の評決は非常に難しい問題があるのではないかと。

前段の署名の重さというあたりからも考えてですが、その点、市長が意見を付して、これを――要するに先送りしていただきたいという内容かと思えます。明解な回答をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○議 長 質疑、答弁も含めて、簡潔にお願いいたします。

市長。

○市 長 まずは、地下の中にどれほど水があるかどうかということがわからないという点から考えなければ、私はこの議論は前に出ないと思います。今ほど岡村議員がおっしゃっているその細かいところが、では、本当にこうなったらどのぐらいだ、例えば全ての数字をもって前に出なければ、条例の緩和ができないという考えに立てば、私は一步も出ないと思います。

まず、この条例が、私も今ほど陳述のお2人の方のお話を聞きまして、自分でも公約化している、この9月の規制の一部改正につきまして、これはどう考えても緩和の方向だというふうに思っています。ただ同時に、陳述者の方とは意見が分かれるところもあるかもしれませんが、やはり学術的な見地からは、節水こそが最もである、第一であるということは伺っているわけであります。私も就任以来、この問題は一番に考えています。9月を先送りするという考えではなくて、9月を待たずともやるべきことがそろった場合には、前を向いて歩み出したいという思いで、今、準備を進めているところです。

ただ、高いハードルがあることは十分わかっている。そして、おおむねの皆さんからの、例えば総揚水量規制とか、これはどのような数字を出したらいいのかというのは、本当に答えられる人が世の中にいるかという、私はなかなか難しい問題だと思います。この地域の地盤沈下よりも怖い地域沈下にどう立ち向かうかという観点がない限り、この一部改正の問題には取り組めない。これは大きな政治判断にもなるというふうにも思っていて、今それをやる進めているところであります。

この中において今考えておりますので、細かいところにつきましては私は今ここで申し上げられませんが、鋭意——それこそ地下水対策の委員の皆さんとも先般行われました。そして担当部局も今、血眼になりまして、この問題に対応するために頑張っているところであります。きょうはここで申し上げられませんが、きちんとした数字、例えば節水のための方策等々、この区域内だけの皆さんに塗炭の苦しみを与えてきたこの問題から、今、水循環基本法もできました。その中においてはこの地域、市内全域の皆さんへの協力、また考えの改めも含めて、それとなるべく強い縛りではなく、皆さんがやはり参加できる形の中での改正がどうしても必要だと思っておりまして、そういう趣旨にのっとり、今、改正準備を進めている。

今回のこの条例につきましては、先ほど意見で申し上げたとおり、節水という観点の部分は、やはり少々欠落している点があるというふうに思いまして、今、私ども市のほうで考えている内容とはちょっと違う点がある。しかし、方向は同じ方向を向いているということでご理解を賜りたいと思います。細かい点につきましては部長のほうから説明させます。

署名の重さ、これは十分受け止めているところであります。有権者の50分の1以上、これをはるかに上回る数で集められた皆さん、恐らくその署名活動の中ではさまざまなことを聞いてこられたでしょう。私も今、この市役所に参るときにはいろいろな道を通りながら、特

にこの市街地の中を雪の降っている状況の中を見ながら毎日通っているところであります。その中で見ている姿と、多分、その署名活動に従事された皆さん、そして署名を一人一人やられた方の気持ちも、私の見ている気持ちのとおりだというふうに思っているところであります。

○議 長 市民生活部長。

○市民生活部長 1点目のことにつきましては、市長が申し上げましたとおりであります。我々も非常に容易ならざる数字であるということは重々認識をしております。9月を待たずという市長のお言葉がありましたけれども、我々も悠長に構えているわけではございませんので、一生懸命できることをやっている状況であります。

今現在、細かな点につきまして市の条例改正案の内容は、申し上げる段にはございませんけれども、基本的な方向性、これは今回提出されました条例改正案と同じ部分もありますし、若干修正を必要とするのではないかという点もございます。

この市の改正案の中身において、総揚水量の規制が実際に可能なのかというご質問がありました点について、私どもも非常にその点を一番重く考えているわけでありますけれども、どれだけ節水ができるか。総揚水量という数字、例えば何万トンという数字をどれだけ削減するかということになりますと、非常にこれは不可能に近い作業になります。我々が考えておりますのは、今現在使われている取水設備、揚水設備の効率化であります。どれだけ効率的に雪を消すことができるのかということを求めています。

今までの100%であるとすれば、それを70%の水で同じ効果が得られるのではないかと。そうしますと、今までの総揚水量の30%が節減できるでしょうと、そういうつかみであります。何万トンをくみ上げているから、そのうちの何十万、何万トンを削りましょうという数字を出したところで、それを積み上げる作業は、実際には不可能なのです。我々はそういう立場に立って、ではどれだけの節水効果を持った節水機器、節水方策をもって臨めば、総体としてどれだけの総量規制ができるのか。こういう考え方に基づいて、今、作業を進めているところであります。

沈下がとめられるかということでもありますけれども、当然、取水する機械、設備が増えてくれば、沈下の量も抑えられなくなってくる。これは我々も一番危惧するところでもありますけれども、もう一つ考えなければならないのは、10年20センチメートルという目標を掲げておりますけれども、今まで沈下を続けてきた——1メートル近く一番大きなところでは沈下しているわけですが、その沈下の状況を分析しても、なお、例えば家屋等への被害、あるいは下水道への被害は、調べましたけれども、顕著なものは認められないと。

沈下は続いていくのでしょうかけれども、その沈下の影響を考えましたときには、市長が申し上げましたとおり、地域が沈下していくことの影響のほうが大きい。どちらかをやはり我々は政策的に、政治的に決断をして、どちらを優先すべきかを決定をしなければならない。これが可能だから、こっち側を選ぶという選択以前に、我々は人の生命、財産、生活を守るという基本理念をもう一度見直す必要がある。立ち返る必要があるという点から、この条例改

正に踏み切ろうという決断をしたわけであります。その点をどうかご理解をいただきたい。

非常に細かな点につきましては、市長が申し上げましたとおり、今の段階では説明ができませんけれども、ご理解をいただきたいところであります。以上であります。

○議 長 18 番・岡村雅夫君。

○岡村雅夫君 簡単にします。地域を守るかという言葉が、今、出ていますが、それは、その前に沈下量という設定があるわけです。そうすると、お題目と現実、要するに目標とするものが歴然と相反しているというふうに捉えて私はいいと思うのです。そういう点では、ちょっとあまりにも曖昧かなという。私はこの署名地域——要するにほとんどの、署名の大半がこの地域ですよね。制限区域です。周辺が若干というような形であります。そういった中で、もし、これが解除の方向という形で考えたときに、私は制限区域に今、井戸がある本数と世帯数、そして周辺地域の世帯数と井戸のある数、こう考えてみたら、周辺地域は井戸を持っているのが 80%なのです。それで、この制限地域内で、じゃあ今 47%を 80%にもしなるとしたら、単純に世帯で計算してみました。そうすると倍増するということが予想されるというふうに私は思うのです。そうした中で、総揚水量というところがネックになるのは間違いないということです。

ですから、近隣の自治体の話もきちんと聞いていただきたいと私は思います。そしてまた、井戸掘削組合ですか、協会ですか、そういう形の中でも陳情が出ているかと思えますけれども、吐出口で規制するよりほかはないということを私は聞いてまいりました。そういう点で深度に関してはつながっているという論を持ちますと、どこで掘っても同じということになりますので、本当にこの市の方向性と意見との関係で、どこを掘っても同じならどっちでもいいではないかと、こういう論にもなってしまうわけです。要は皆さん双方が総量規制をどうすることができるかというあたりが、地域の方々と行政が接点をとらなければ、どっちがやっても同じ結果ではないかと、こういう話にならざるを得ない結果が見えますので、私は一言申し上げております。これからの審議をひとつよろしく願いいたします。

○議 長 答弁はよろしいですか。はい。

13 番・塩谷寿雄君。

○塩谷寿雄君 大綱なので、超える範囲であつたら議長からとめていただきたいと思えます。今ほど、市長から 9 月というような言葉が出てきました。それは 9 月が一番末尾であつて、それ以上早くしたいということをおっしゃったのだと思います。井口市長時代から昨年の 12 月ということで、ちょっといろいろな勘違いがあつた中で、来年の 9 月というようなことを井口市長も言っておられ、現林市長になられても、今そういう話をしております。そこにおいては 9 月以上延びないというようなことの期限なのか。

今、緩和していくという市長の考えですけれども、非常に市も試行錯誤をし、この井戸の問題では地下水を揚げず、ヒートテックだったりとか、そういうような研究をいろいろ国の補助もいただいて、井戸の温度とか、地下水温度での家とかもつくったわけです。いろいろな対策をしてきて、なかなか難しいからここにやはり踏み込むという考えだと思ふのですけ

れども。実際、その検知者からいいますと、すり鉢状で、上で揚げれば結局同じだというような判断。下で揚げてもというような、すり鉢状になっていると井口市長もそうっておられたわけですが、そういった中で、本当にこの署名の重さがあります。絶対にやらなければいけない緩和の状況の中で、今の話ですと、節水のことに對して市長はこの意見書の中で述べているわけですが、なかなか数字のことは言えないという中で、その点での、節水以外で、今、署名があがってきているこの条例改正案の部分で、意見書ではないことでもし触れられる部分があればお聞かせいただければありがたいと思います。

○議 長 市長。

○市 長 まずは時期的な問題。これは9月をめどに、9月議会に必ず条例一部改正の案を出すと言ってきました。必ずそれはどうしても守りたい。しかし、先ほど言ったのは、どうしてもこの地域が、9月でもしも皆さんの賛同を得て条例が改正された場合に、その後の冬をすぐに迎えるわけであります。この時期的なものも考えたときに、やはりスピード感を持って、きちんと改正ができる、そういうところまでいこうという準備が整った段階では、定例会を待たずとも、例えばそういう臨時会なりとかという形でのことも視野に入れながら、これは必ずできるとはまだ申し上げられませんが、そういう気持ちで進んでいきたいということであります。

節水につきましては、先ほど言った「緩和」といいまして、緩和がひとり歩きされても困るのです。2つある。緩和と同時に節水だということであります。節水については、これまで勢い当該の沈下地域の皆さんに非常に重くのしかかっていた。そういう、まさしくその部分がすごく強かったところを、できれば市内全域に、これから新しく掘る皆さんにつきましては、例えば高感度の感知器や節水タイマー、こういったことを義務づけるとか。現在、既得権と言っては言葉が過ぎるかもしれませんが、既にこの地域内でも、規制区域内でも使われている皆さんに対しても、水はみんなの財産であるという観点から、新たに節水の方のそういった設備をつけていただくことを――絶対義務化というのは難しいかもしれません。これが今の審議されている内容のところに触れているところがあるかと思いますが、その辺のところでもみんなの理解を得る中で、誰かだけが苦しんでいるという状態ではない、私は地域づくりが最も必要だと思っています。

そのような観点の中で、先ほど都市計画の話や土地の問題にも及びました。国調が行われていない、いろいろあります。確かにそういう地域が、まさに今回地下水の一番の目玉になっている地域でありますので、それが進むのを待つてすることはできませんから、そういう中では共同の井戸の設置とか。では、個人の土地だけでそれが解決できるかという中で、さまざまな土地利用の中で、多くの皆さんがきちんとそれに利益に供与できるような、そういう形のあり方とか、簡単ではないハードルがいっぱいあるということで、今回のこれは私としては意見を付しました。しかし、今後の9月、またそれよりも前になればもっといいことでもありますけれども、それに向かって市の我々もよく考えて、きちんとした条例を、将来にわたって、あのときの条例改正はよかったと言われなければいけないことでもあります。きち

んと慎重に、かつスピード感をもってやりたい、そういう意味であります。細かいところがあつたら説明をお願いします。

○議 長 市民生活部長。

○市民生活部長 節水のこと以外で条例改正案で説明ができることということで質問がありました件につきまして、何度も申しますけれども、方針的な部分でしか今、決まっておりますので、概略の方針ということでお聞きをいただきたいわけであります。

まず、1つは、地盤沈下区域の区分、線引きをどうするかという問題であります。現実には沈下が起こっている過去5年間の積算のグラフがありますし、平面図がありますけれども、それを見ますと、六日町の中心市街地から北のほうにずれていっているという事実がございます。美佐島のほうにですね、これをどう捉えるか。将来的にこちらのほうも沈下が進んでいくであろうということがわかるわけであります。これを今の段階でどう捉えていくか。非常に大きな問題でありますけれども、その点の検討もしなければならない。

それから、井戸の規制の内容でありますけれども、やはり、今、条例内で井戸の深さそのものの規制と、ストレーナーの位置の規制と両方あるわけです。現在提出されております改正案では、ストレーナー深度で考えておられるようですけれども、私はこれは正解であろうと思います。井戸の深さではなくて、どの地点から取水するかという考え方、これに統一すべきであるということは、我々も今考えております。ただ、そのラインが80メートルなのかどうなのかということについては、我々はもう少し考えなければならない点があるというふうに思っております。

それから、井戸の大きさの規制でありますけれども、やはりこれはケーシング、井戸の穴の口径を統一する必要があるだろうというふうに思います。この点は提出条例案と我々もそう違いはないというふうに思っております。

それから、井戸の能力でありますけれども、先ほど岡村議員が言われましたように、やはり決定づけますのは、吐出口径であります。定格出力ではなく、吐出口径で統一的な規制ができないのか、考え方ができないのかということを検討しております。具体的な数字につきましては今しばらく押さえていただきたいと思います。以上であります。

○議 長 13番・塩谷寿雄君。

○塩谷寿雄君 簡潔にいたします。やはり緩和の方向で求めているも、使いづらくなったり、また、その水の量とかの規制にもなるわけですが、緩和しても使いづらくなならないような方向で、しっかり考えていって、研究していってほしいと思う点と、今ほどの市長の思いというのが、9月までにということでありまして、来年には議決が得られれば、来年度今の時期ということであれば、もう出る条例改正を市も考えているということなので、その部分をもう一度再度確認し、質問ですけれども、来年は掘れるように、議決さえもらえばできるのかという部分はお聞きしたいと思います。

○議 長 市長。

○市 長 できれば、本当に望む方は、ことし中に掘れるようになるべくしてあげる



のが、私は今回政治判断の中の大きな問題だというふうに思っています。なるべくそうしたい。

○議 長 19 番・樋口和人君。

○樋口和人君 今ほど市長のほうから、次の冬までには掘れる方向に、というようなお話をいただきました。いろいろな問題があるのでしょうけれども、そういった方向で進んでいただくということが出てきていましたので、それはそれで本当に苦しむ方にとってはありがたい話だと思っています。

私がちょっとお聞きをしたいのは、いわゆる今までできていた条例の根本的な規制のあり方ですとかということになるのですけれども、この地盤沈下の条例については本当に六日町の時代、平成6年ですか、それ以降はこういう規制でいくよというような形で出ました。実はその前に掘った井戸についてはそのまま使ったりということで、規制はかけた。けれども、本来ですと規制をかけた後、皆さんが持っている、今使っている井戸がだめになる前に、いわゆる行政として、ではそれにかわる対策ですとかそういったことを本来検討したり、提案したりしてくるべきだったのだと思います。今ここでなぜこれほど問題になっているかと言えば、20 何年たって、今まで使っていた井戸が本当に使えなくなる、その危機感の中で皆さんがこういった思いを出してきているのだと思います。

そこら辺の、いわゆる今まで市がどういったことで、規制はかけたけれども、その後、皆さんの不便を解消するためにどんなことをしてきたのか。あるいはどういった考え方が結果として出ているのか。その中に、今いろいろありますけれども、1つは節水というものにつながる方策も多分あるのだと思うのですが、そこら辺の成果ですとかをちょっとお聞かせ願いたい。

もう1つ。ちょっと細かいことをいうあれはなかったのですが、先ほど部長のほうから、ストレーナー深度のことで話が出ていました。これは私の私見なのですが、私は深度というよりも、掘ったところがれき層なのか、砂地なのか。いくら80メートルでも砂地から揚げれば、やはりそこは沈んだり、砂が出てくるわけですから。そういったことの判断、あるいはやはり少ない水で消すということになれば、温度だと思うので、例えばある程度温度がなるような深さまで掘るとかというそこら辺のところも——これは多分委員会のほうで細かいところは出てくるとは思うのですが、まず1点目、2点所見をお聞かせ願いたいと思います。

○議 長 副市長。

○副市長 今ほどの、今までやってきた経過につきましては、私よりも議員のほうがよくご存じかと思うのですが。例えばここの駐車場に電熱を入れまして、キュービクルを使ってやりました。理論的には消えるという話でしたが、やはりジュール熱で消えるものですから、直接50センチメートル、1メートルの雪が降れば当然消えないということで、今はあところで確か3,000万円近く使ったのかなというふうに思っていますが、残念ながら至りませんでした。

その後、環境省さんの補助金を受けて、上町に住宅をつくりまして、地下水熱を山形大学の皆さんと一緒に研究をしてみました。これにつきましても、いわゆる採熱管が今ひとつうまくできなかったということで、屋根の雪が非常によく消えるということにはなりません。実際、これは山形ですとか、富山ですとか向こうに行きますと、積雪深度の浅いところでは非常に効果があります。一晩に1メートル近く降るということになりますと、接地面積のところが零度になるわけでありますので、なかなかその先が消えてこないということがありました。

そのほか、私ができる部分ですと、津久野の工業団地のほうで、瓦に似たもので雪を乗せると雪が消えるとかありましたし、水道水を使ったもので加温をしてというようなことで、いろいろやってみましたが、結果的に、コストをかければそれはできるでしょう。ただ、一般の住宅の皆さんがコストをかけても消すというまでには至らなかったというのが、私は現状ではないかと。失敗というわけではありませんが、チャレンジは多々やったというふうに、私は記憶をしております。以上でございます。

○議 長 市民生活部長。

○市民生活部長 ストレーナー深度の規制の考え方につきまして、その地層、れき層、あるいは砂地、粘土層等の区分によって、やはりストレーナーの位置を変えるべきではないか、あるいは取水できる温度によって散水量といいますか、取水量も変えていくべきではないかというご意見であります。我々もその点につきましては、それは可能かどうかということを検討してまいりました。

公共井戸、道路の井戸におきましては、電気検層でその地層を調べます。大体どこら辺から水が出そうかというところで、ストレーナーの設計をするわけでありまして、揚水試験をして、何度のお湯が1分間に何リットル出るということから、そのデータから入れるポンプの形式を決めるわけであります。

ところが、公共井戸はそれができますけれども、一般の住宅、個人で掘る井戸について、そこまでやってもらえないのだろうと。お金をかければやってもらえるのでしょうかけれども、電気検層、あるいは揚水試験まで普通は一般住宅では行わないのだそうです。そうしますと、バックでもってぼんと掘って、何メートル以下の設計でもってストレーナーを入れて、ポンプを入れると。短期間で終わらせていくという井戸の掘り方が、一般的なのだそうです。

そうしますと、我々が考えるその細かなストレーナーの位置でありますとか、水温による規制の内容というのは、ちょっと現実的には無理があるということ今、検討しているところでもあります。結論的にはそれがちょっと難しいというふうに今は考えております。以上です。

○議 長 19番・樋口和人君。

○樋口和人君 いろいろと今まで地下水にかかわるものについて検討、あるいは研究をしてきたということでもありますけれども、結果的には、やはりその間、この地盤沈下区域の皆さんは本当にいらぬ心配をしたり、難儀をしたりしてきたということだったので、よく政治

は結果責任という話がございますけれども、その辺も踏まえた中で今後のいろいろな規制ですとかあり方、あるいは規制した後のあり方、そういったことを十分に踏まえて、今後これには生かしていただきたいというふうに思って、私の大綱質疑を終わります。

○議 長 14 番・清塚武敏君。

○清塚武敏君 先ほどの意見陳述人、久保田氏、岡村氏の思いを熱く受け止めたのと、また、1,749 名の署名の皆さんの心も伝わっております。この井戸規制問題につきましては、本当に市民には苦難を強いてきたと私も思っております。

その中で今回市長からこの意見書を示していただきました。その中で、先ほど岡村議員、塩谷議員の時期について市長の答弁は、9 月議会、もしくはちょっとでも早くしたいという声を伺いました。本当に市民が期待する中で、この意見書の中で時期を示さなかったのについては、ちょっと私はどうなのかという思いが 1 点あります。

2 点目ではありますが、先ほどの陳述の中で、久保田氏がいろいろ断層や地層のこと、また分水嶺で地下水の流れ等を示していただきました。昨年の 8 月の末に長岡技術科学大学及び新潟大学の教授から、上下でつながっており、深層部からの取水に切りかえただけでは、地盤沈下の抑制効果は薄いという結論は出ております。今後であります、昨年の 12 月でまた補正でありますか、地下水 5 か所の調査もされます。今後、それらをもとにこういう学識経験者等の意見を伺っていく方向で考えているのか、その 2 点についてお伺いいたします。

○議 長 市長。

○市 長 まずは清塚議員からの目標期日を入れなかったというところの 1 点目の質問ですが、議場でもう私は何度も、9 月議会に必ず提出をしますということを公言しておりましたので、ここには特に意図があって書かなかったわけではありません。そういうことで皆さんにもご理解いただいているというふうに思っております。その点だけでありますので、その辺をご理解いただきたいというふうに思います。

○議 長 市民生活部長。

○市民生活部長 もう一度大学の先生方の学識経験者の意見を聞く考えがあるかということとでありますけれども、当然、今の段階で考えております。細かな点についてお聞きするのではなくて、一応まとまった案としてこれでどうでしょうかという形での、また意見の折り返しということを考えております。以上です。

○議 長 質疑を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、質疑を終わります。

○議 長 ただいま議題となっております第 1 号議案は、社会厚生委員会に付託いたします。社会厚生委員会はこの後、午後 1 時 15 分より、2 階大会議室において開催しますので、関係委員、並びに執行部の方はご参集をお願いいたします。

○議 長 以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。本日はこれで散会いたします。

○議 長 次の本会議は明日 2 月 8 日水曜日、午前 9 時 30 分、当議事堂で開きます。  
大変ご苦労さまでした。

[午前 12 時 15 分]